

日総ビルディング

小規模オフィスを積極化

成長に応じて3タイプ

都内や横浜を中心に約20棟のオフィスビルの開発・運営を手がける日総ビルディング（東京都港区、大西紀男社長）は、首都圏で小規模オフィスを開発を積極化していく。従来からの同社運営の中規模ビル「日総ナンバビル」（20坪以上）と、昨年からのスタートした小規模企業向けの「エキ

スパートオフィス」（5〜20坪）に加え、今後は創業期向けの「アドバンスオフィス（仮称）」（1〜5坪）を立ち上げる。企業の成長段階に合わせた3タイプのオフィスをそろえていく。

「アドバンスオフィス」は、個人や起業間もないベンチャー企業を対象とした1〜3人用。完全個室やセミ個室、ブースで仕切られたタイプなどデスク単位で貸し出す。第1弾物件として、7月に東京・渋谷駅南口の既存ビルのワンフロア（85坪）を使ってオープンする。渋谷や青山、赤坂、六本木、新宿、横浜などのエリアで今後3年間で10カ所を整備する計画だ。

合わせてベンチャー企業支援サービスも提供していく。テナント企業のビジネスにつなげるために、交流や協業の



好調な稼働が続く虎ノ門の「エキスパートオフィス」

場を用意する。また、セミナーや講演会といったイベントを企画したり、会計・法務のパッケージサービスも提供していく方針だ。

同社では、若年層の起業や大企業からの独立が増加している中、グレードの高い小規模オフィススペースが不足していると判断。07年から同社ナンバビル内で小規模オフィスフロアの営業を開始し、

12年からは土業などの小規模精鋭企業向けに、コンパクトながら大規模ビル並みのセキュリティやアメニティをそろえた「エキスパートオフィス」を虎ノ門と新横浜で開設している。来年夏には、渋谷と丁目にも「エキスパート」を主体とした新築ビルを竣工する予定だ。